

2020年度 SYLLABUS 【博士前期課程】

授業科目名：金融経済学特論	
担当教員名：國方 明	
<p>授業科目概要：</p> <p>本科目では、ミクロ経済学の理論とマクロ経済学の理論を金融に応用する。本学大学院博士前期課程には、金融関連科目として、本科目以外に金融機関論特論とファイナンス特論がある。本科目は、これら他科目と、次の2点で異なる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 他科目では、ミクロ経済学を金融に応用した理論だけを教える予定である。これに対して、本科目では、マクロ経済学を金融に応用した理論を中心に教え、ミクロ経済学を金融に応用した理論については最小限にとどめる予定である。 ● 他科目では、経済学と統計学の両方に基づく議論を紹介する予定である。これに対して、本科目では、統計学に基づく議論を紹介しない予定である。 	
<p>履修上の留意事項：</p> <p>あらかじめ、マクロ経済学特論、ミクロ経済学特論Iおよびミクロ経済学特論IIの単位を取得していることを強く望む。もし、これら科目の単位を取得していなければ、各科目のシラバスで指定されている教科書などを使って自習すること。</p>	
<p>教科書</p> <p>書名：『金融論 市場と経済政策の有効性』 著者／編者：福田慎一 著 出版社：有斐閣 出版年：2013年</p> <p>全15章である。そのうち、第1章～第9章が、ミクロ経済学を金融に応用した章と言えるだろう。これに対して、第10章～第15章が、マクロ経済学を金融に応用した章と言えるだろう。もっとも、ミクロ経済学とマクロ経済学の両方にかかわる章もあるので、上の2区分を目安と考えてほしい。</p>	
参考書（参考文献）	
<p>参考書1：</p> <p>書名：『金融論』 著者／編者：大野早苗 他 著 出版社：有斐閣(有斐閣ブックス) 出版年：2007年</p> <p>金融についての包括的なテキストである。金融にかかわる様々な論点を概観するのに役立つだろう。特に金融政策を取り上げる第5部が優れている。但し、出版年が古く、章ごとで難易度が大きく異なる。</p>	<p>参考書2：</p> <p>書名：『金融政策のフロンティア：国際的潮流と非伝統的政策』 著者／編者：翁 邦雄 著 出版社：日本評論社 出版年：2013年</p> <p>非伝統的金融政策についての、研究者や実務家向け書籍である。非伝統的金融政策にかかわる様々な論点を、経済理論面だけでなく制度面からも紹介している。</p>
<p>参考書3：</p> <p>書名：『金融政策』 著者／編者：小林照義 著 出版社：中央経済社 出版年：2015年</p> <p>金融政策についての学部生向けテキストである。学部生向けと言っても、金融に関する知識を持たなければ、本書を読み進めることは難しいだろう。</p>	<p>参考書4：</p> <p>書名：『非伝統的金融政策』 著者／編者：宮尾龍蔵 著 出版社：有斐閣 出版年：2016年</p> <p>非伝統的金融政策にかかわる学部生向け書籍である。非伝統的金融政策の効果を、理論と実証の両面から分析している。経済学の分析手法を学ぼうえでも参考になるだろう。</p>

<p>評価方法及び判定基準： 次の(ア)および(イ)を総合して、100点満点で各履修者を評価する。 (ア) 授業への参加や貢献 (イ) 課題1回</p> <p>上記(ア)および(イ)の内容及び配点を、第1回授業内で伝える。</p> <p>A評価：80点以上、B評価：70点～79点、C評価：60点～69点、F評価：59点以下</p>
<p>授業目標及び進め方： 目標：金融を分析するために、ミクロ経済学やマクロ経済学の理論をどのように応用すれば良いのかを理解する。 進め方：教科書を輪読するか、國方が講義するかのどちらかである。履修者が多ければ輪読を、履修者が少なければ講義を、それぞれ採用したい。 また、学期中に一度、課題を与える。課題内容として、金融をテーマにした学術論文またはレポート数本を配付して、各履修者にそのうち1本を要約してもらい、というものを予定している。詳細を授業内で伝える。</p>

◆ 授業進行計画 (* 受講生の関心分野、講義の進度に応じて、一部内容を変更する可能性がある。)

第1回 第2回	<p>テーマ：金融の役割 内 容：金融という経済活動の役割と、その経済活動が民間金融機関などの組織を通じて行われる理由を紹介する。</p> <p>教科書第1章を使用する予定である。</p>
第3回 ～ 第6回	<p>テーマ：ミクロ経済学の金融への応用 内 容：第7回以降の授業を理解するのに必要な範囲内で、ミクロ経済学を金融に応用した理論を紹介する。</p> <p>教科書第2章、第6章、第7章および第9章のそれぞれについて、全部または一部を使用する予定である。特に、第2章で紹介するライフサイクル仮説は、現代の主流派マクロ経済学で標準的なツールの1つである。</p>
第7回 ～ 第15回	<p>テーマ：マクロ経済学の金融への応用 内 容：金融政策を中心に、マクロ経済学を金融に応用した理論を紹介する。</p> <p>教科書第10章～第15章を使用する予定である。参考書についても適宜言及したいと思っている。</p>